

## 2021 (R3) 年度 学修行動調査 結果報告 (全学科・専攻)

2021 (R3) 年 9月

教育・学修支援センター/IR委員会

### 【調査結果の概要】

昨年度と同様に今年度も新型コロナウイルス感染症対策として大阪府からの要請や緊急事態宣言の発出があったことで、4月中旬～6月中旬にかけて、大部分の授業を遠隔型(同時双方向型・オンデマンド配信型等)で実施することを余儀なくされ、対面で実施されたものは実験・実習系など一部の少人数授業に限定された。授業方法と受講方法の劇的な転換に伴う教育・学修環境の混乱は、昨年度と比較すると、教員と学生双方にある程度の「慣れ」や「心得」が形成されたこともあってか、幾分落ち着いたようにも見える。しかし、コロナ禍前である令和元年度のデータと今年度のデータを見比べてみると、コロナ禍は依然として学修行動の変化に強い影響を与えていることが推測できる。

なお、今年度の回答率は昨年度と比べて全ての学科・専攻において上昇し、一部の学科では20%以上も上昇した。また、全体での回答率も昨年度より10%以上上昇した。これは、教員からの積極的な回答促進と、今年度より開始した回答締切日の柔軟な運用が功を奏したことと同時に、学内全体に学修行動の実態を把握することや学修成果を可視化すること等の重要性が認識され始めたことの証左であると考えられる。

### 【回答状況】

2021 (R3) 年度	対象者数(人)	回答者数(人)	回答率 (%)	2020(R2)年度(%)
日本語日本文学科	219	185	84.5	63.4
歴史文化学科	219	167	76.3	51.9
幼児教育専攻	414	319	77.1	74.2
学校教育専攻	341	260	76.2	74.9
特別支援教育専攻	126	85	67.5	60.6
人間社会学科	338	317	93.8	88.2
スポーツ健康学科	424	357	84.2	65.8
薬学科	794	766	96.5	82.1
<b>全学</b>	<b>2875</b>	<b>2456</b>	<b>85.4</b>	73.8

回答期間:令和3年5月24日～6月11日(※一部の学科・専攻については6月18日まで延長)

### 【考察】

・平成29年度より、moodle上のアンケート機能を利用し、授業時間外にもパソコン、スマートフォンから回答できるWeb方式に移行している。Web方式にすると回収率が低下することは、先行大学の知見からも予見されたが、平成29年度は58.2%、平成30年度は55.3%と、回収率が大きく下がった。このことを受け、IR委員内において「回収率向上のためには、タイムリーな学生への声掛

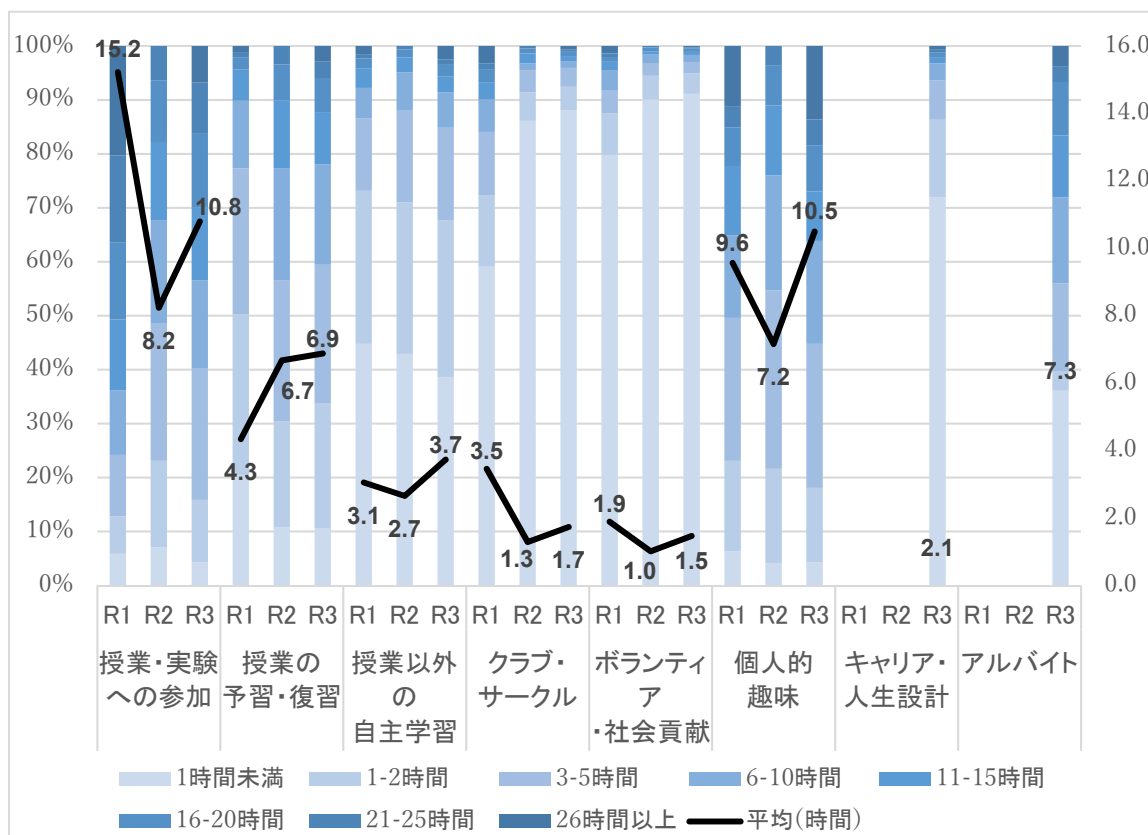
けが重要である」との共通理解を形成し、令和元年度からは、ゼミ担当教員やアドバイザー教員に複数回の「督促依頼メール」を発信するとともに、教育・学修支援センターから moodle の「未回答者へのメール送信機能」を使って学生に直接回答の督促をする取り組みを行ってきた。その甲斐もあって、コロナ禍という未曾有の状況下で行った昨年度の調査においても、ある程度高い回答率を維持することができていた。今年度はさらに、各学科・専攻の回答率の状況に応じて、締切り日を弾力的に設定できるようにガイドラインを作成・運用した。こうした環境改善と IR 委員の努力、さらには教学 IR データの収集や学修状況・学修成果の可視化といったことへの理解が大学全体で高まったことで、昨年度を大幅に上回る高い回答率を得ることができた。

・昨年度の結果報告にて課題として挙げていた回答率 80%以上という数字を多くの学科で達成することができたが、一部には未達成や伸び悩みが見られる学科・専攻もある。今後はこれらの学科・専攻の学生に対してどのようなアプローチを図っていくかということを検討する必要がある。

※本調査は大阪府への3度目の緊急事態宣言発出中(令和3年4月25日～6月21日)に実施したものである。冒頭部の概要に記述の通り、本学では4月中旬～6月中旬にかけて、ほとんどの授業を遠隔型で実施した。データの分析、読み取りの際はこの点を留意する必要がある。

## 【 I : 1週間の時間の使い方(8項目)】

(※「キャリア・人生設計」、「アルバイト」については R3 年度より設置した項目である)



## 【考察】

・昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響は続いていると考えられる。昨年度、大幅な下落を示した「授業・実験への参加」は若干の上昇を見たものの、令和元年度と比較すると依然として低い水準であると言える。本学では今年度前期の授業に関して、当初は感染防止対策を徹底した上で、原則として教室を利用して対面で実施するという方針をとっていた。しかしながら大阪府からの要請ならびに緊急事態宣言の発出を受けて、4月中旬～6月中旬まで多くの授業を遠隔型で行うこととなった。遠隔型授業については、昨年度と同様にそのスタイルについて大学側から指定することはせず、Zoom や Teams 等のオンライン会議システムを用いた同時双方向型授業、無人での授業風景を撮影したものや PowerPoint のスライドを動画にしたものを配信するオンデマンド授業、本学の LMS である『tani-WA』(manaba) に課題と解説の音声アップロードする授業等さまざまであり、1コマ 90 分という授業時間という枠に縛られないものも多かった。そのため、学生が教員と接する(姿を見る・声を聞く等)時間の減少や、学生にとって授業と予習・復習の境目の区別がつきにくいといった状況も継続し、結果として「授業・実験への参加」時間は、全面对面授業を実施していた令和元年度と比較して、平均で 4 時間以上減少したものと考えられる。ただし、同様に遠隔授業が大半を占めていた昨年度と比較すると平均で 2.5 時間以上増加している。これは、授業を行う教員と授業を受ける学生の双方に、遠隔型授業に対してのある程度の「慣れ」や「コツ」、「心得」といったものが形成されたことが背景にあると考えられ、少なくとも昨年度

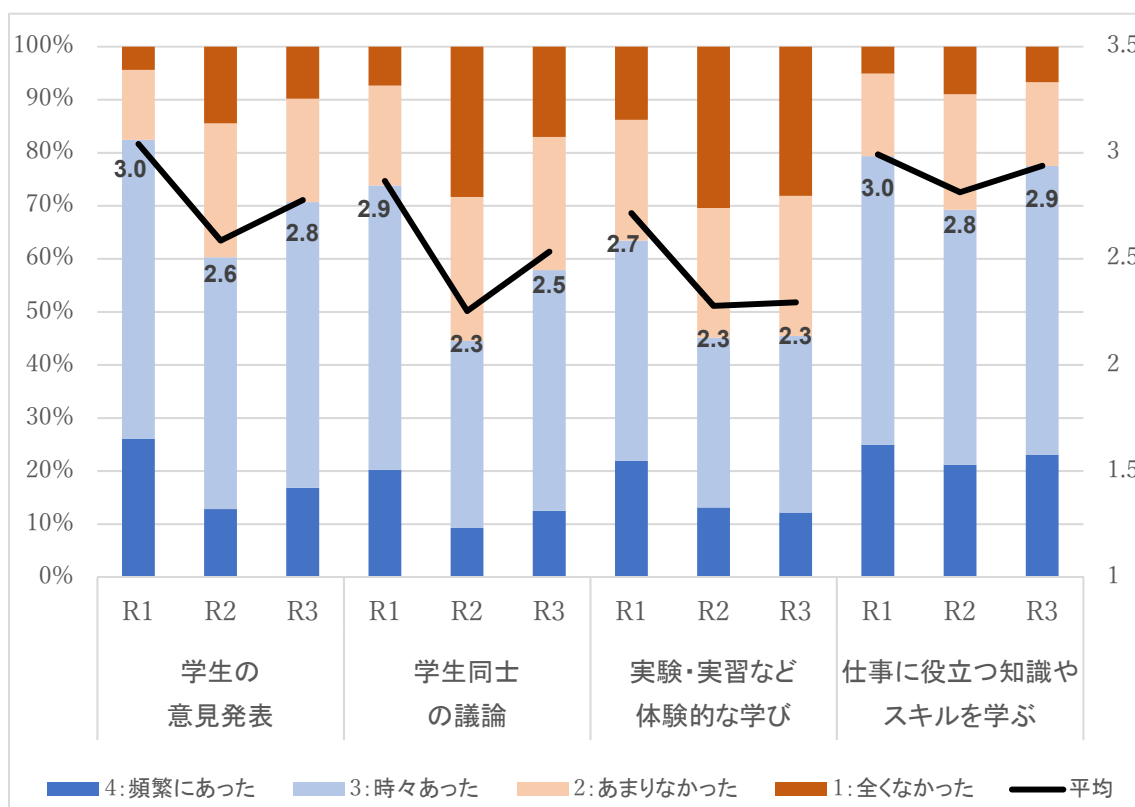
よりは授業へ参加している感覚を得やすかったものと思われる。

・「授業の予習・復習」については令和元年度と比較して平均で2時間以上増加している状況が維持された。これは、昨年度と同様に、多数の教員が遠隔型授業を実施する際に、レポートや小テスト等の課題を課したことが一因と考えられる。遠隔型授業への転換に伴う「課題疲れ」の問題が昨年度から指摘されているが、本学においても学生の負担感を把握し、もし問題がある場合は改善の手立てを講じていく必要がある。

・「クラブ・サークル」と「ボランティア」に関しては微増に留まった一方で、「個人的趣味」という項目についてはコロナ禍前の水準を超える大幅な上昇となった。昨年度より「ステイホーム」や「自粛生活」が叫ばれる中で、家から出ずに楽しめる趣味を各々が開拓した結果であると考えられ、学生の「生きる力」の伸びやたくましさを感じさせられた。

・「キャリア・人生設計」と「アルバイト」については今年度より新たに設置した項目である。インターンシップを含む就職活動やアルバイトは学生の生活の中である程度のウェイトを占めていることが考えられ、今後どのような推移をたどるのかについて注目したい。

## 【Ⅱ:授業内での経験(4項目)】



### 【考察】

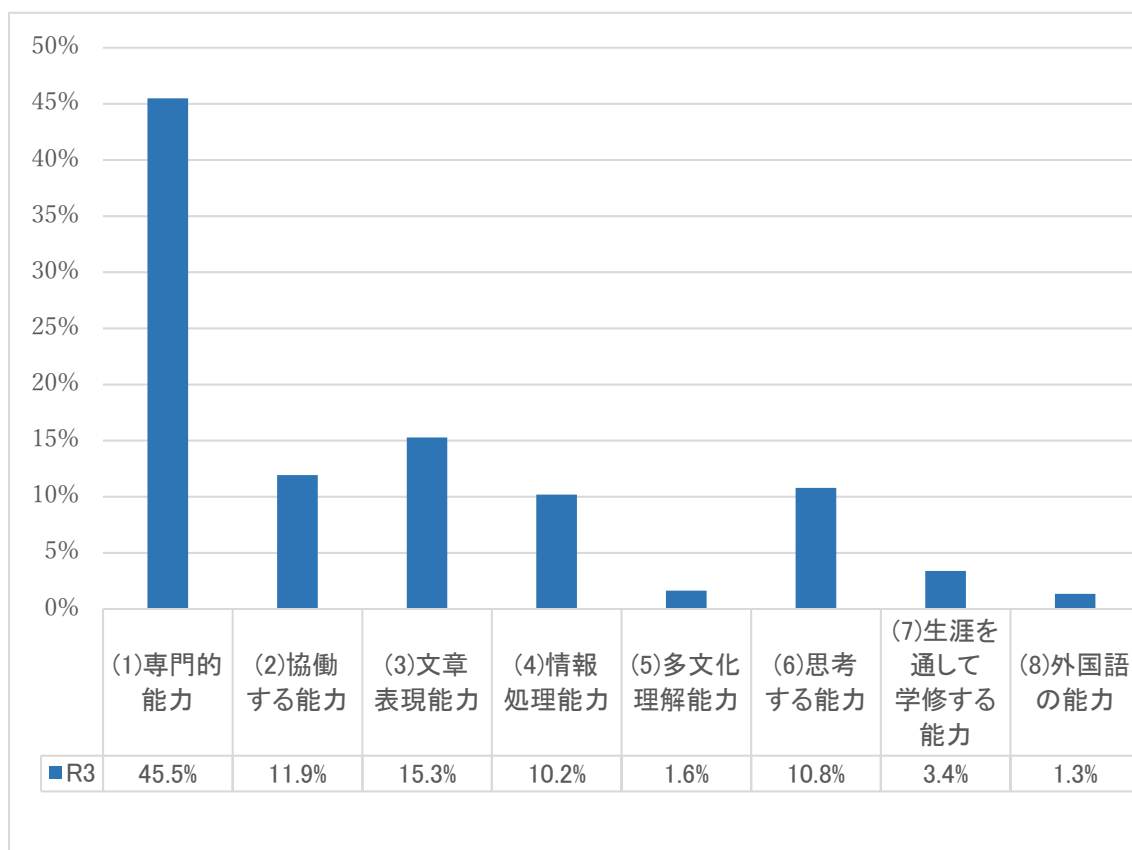
- ・本設問については全ての項目で昨年度とほぼ横ばいの結果となった。「学生の見解発表」と「学生同士の議論」が微増したのは、遠隔型授業を行うに際しての教員のICTに関するスキル（例えばZoomの「ブレイクアウトルーム」やtani-WAの「プロジェクト」、「掲示板」等の機能についての知識）がこれまでの実践を通して向上したことも要因と考えられる。
- ・上記の2項目に「実験・実習など体験的な学び」を加えたアクティブラーニングに関わる項目については、令和元年度の水準を回復できていない。昨年度と同様、対面授業がほとんど実施できなかったことに起因すると考えられる結果であり、コロナ禍以前では年々上昇の兆しを見せていた項目であるため、来年度以降の結果に期待をしたい。

【Ⅲ：成長を実感している能力と成長への満足度(4項目)】

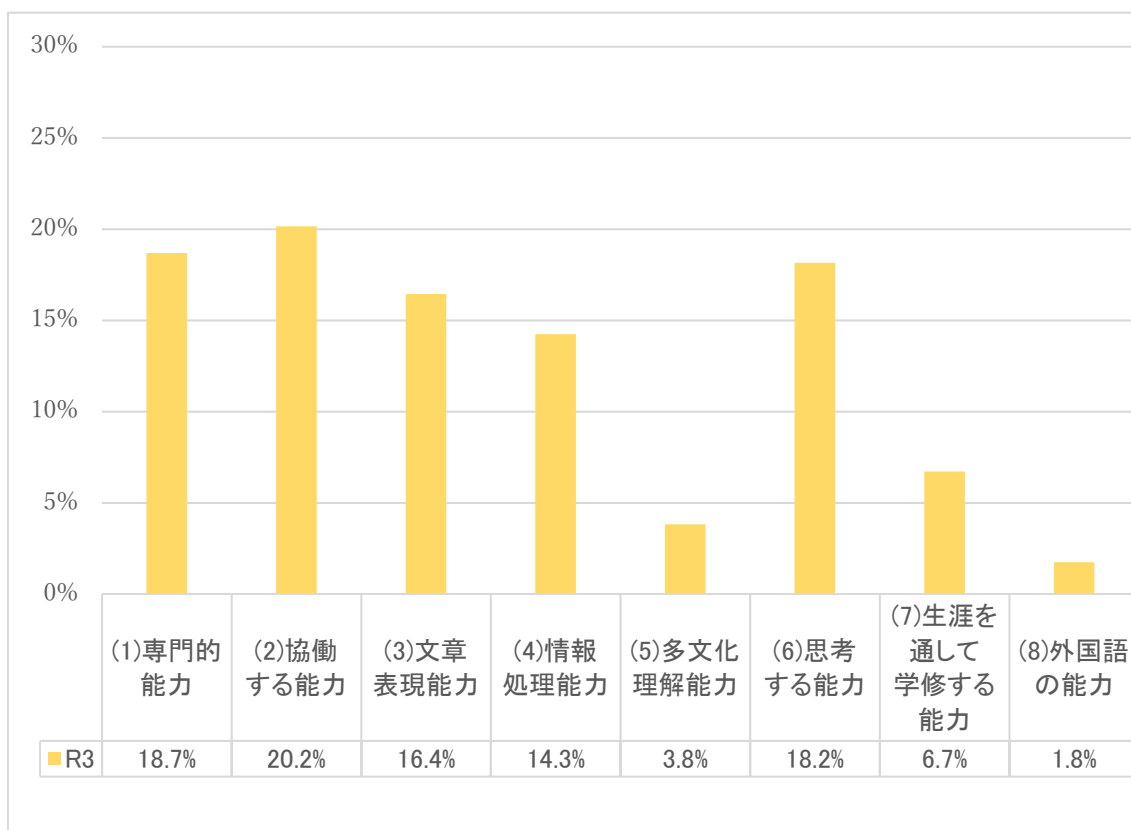
※各能力の概要・例は以下の通りである。

- (1) 専門的能力(例:専門分野についての知識や技能、将来の職業に関する知識や技能)
- (2) 協働する能力(例:人間関係を構築する能力、周りと協力して課題に取り組む能力)
- (3) 文章表現能力(例:レポートを書く際や試験の際に文章を論理的に書く能力)
- (4) 情報処理能力(例:身の回りにある様々なデータを読み解く能力、パソコンやタブレット等の情報機器を使いこなす能力)
- (5) 多文化理解能力(例:グローバルな問題への理解や関心、地域的な課題への理解や関心)
- (6) 思考する能力(例:様々な角度や広い視野から物事を捉える能力、解決すべき課題を発見する能力)
- (7) 生涯を通して学修する能力(例:幅広い知識、多面的な物の見方、自ら学修する習慣)
- (8) 外国語の能力(例:外国語でコミュニケーションをとる能力、外国語で読み書きする能力)

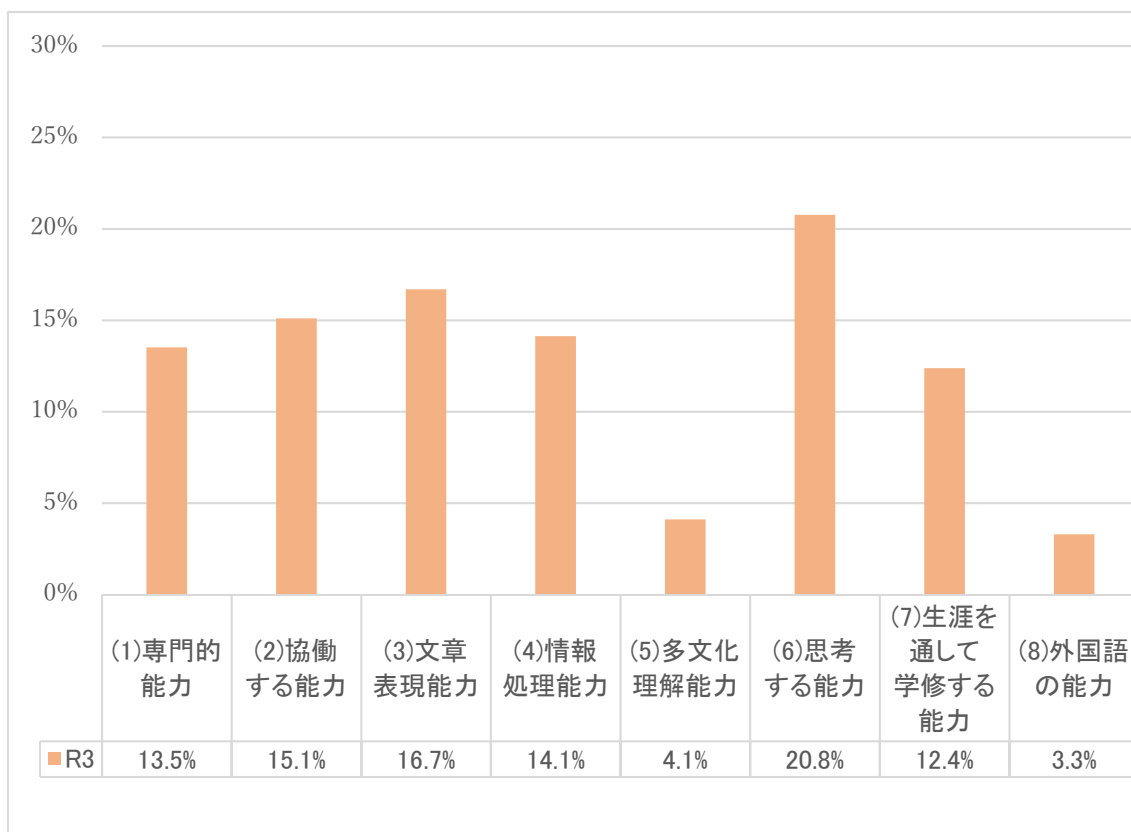
1. 最も成長したと実感している能力



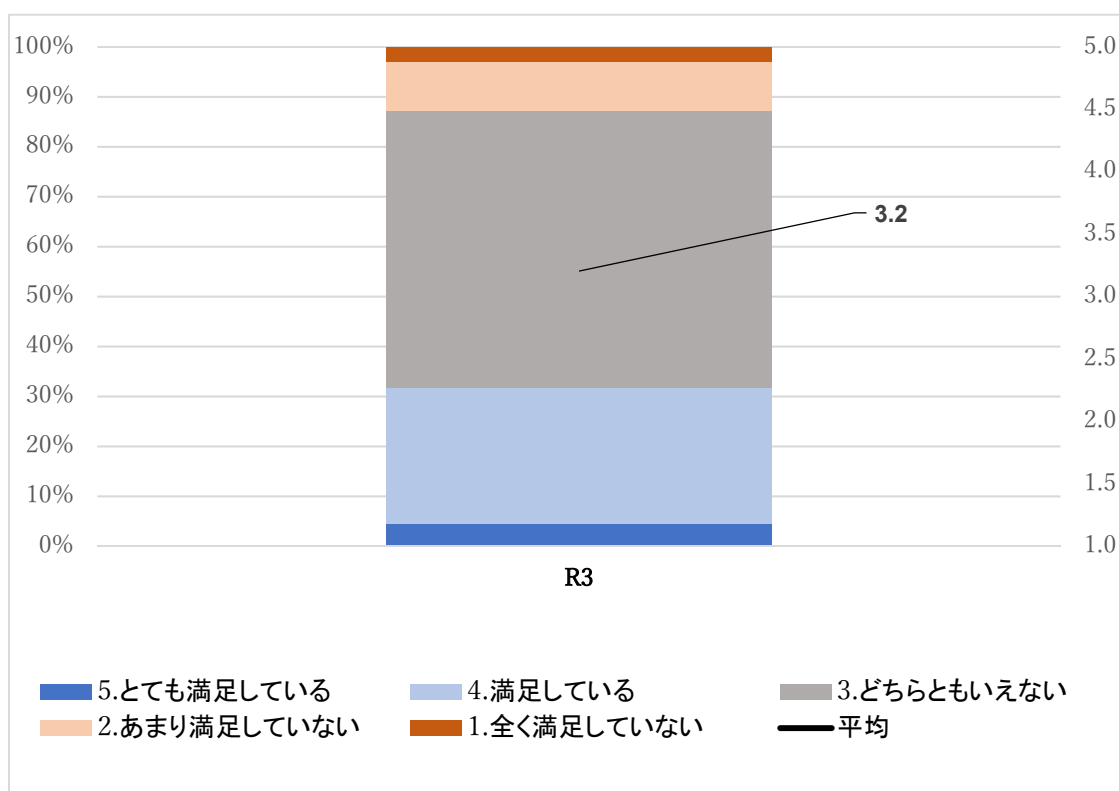
## 2. 2番目に成長したと実感している能力



## 3. 3番目に成長したと実感している能力



#### 4. 現時点において自らの能力の成長度合いについてどれくらい満足していますか。



#### 【考察】

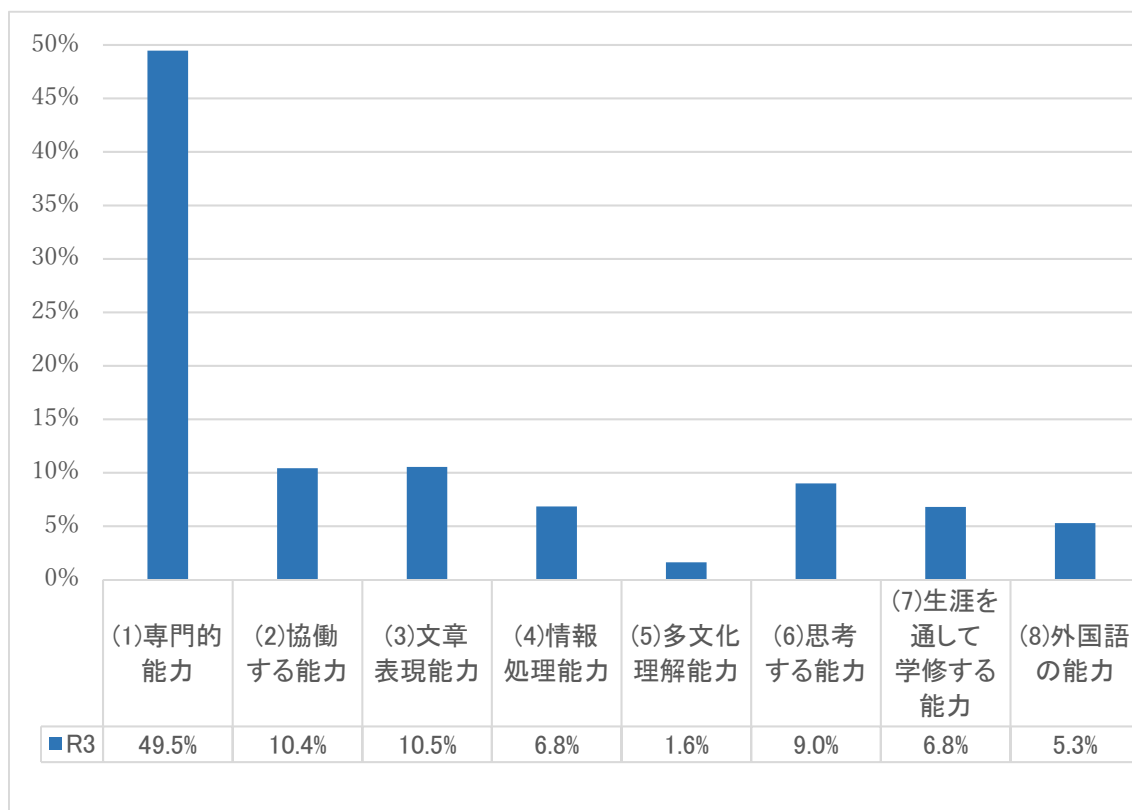
- ・本設問 1～3 は昨年度まで「大学入学時と比べて身についた能力・知識」として 17 項目を設定し、「かなり身についた」から「全く身につけていない」までの 5 件法で調査した設問を、項目数を 8 つまで絞り込み、問い方についても自身が成長したと実感している能力の上位 3 項目を選択する方式に変更した。
- ・最も成長を実感している能力は「専門的能力」が圧倒的であり、各学科・専攻の CP(カリキュラム・ポリシー)や DP(ディプロマ・ポリシー)の一丁目一番地において規定している力の伸長が狙い通りに図られていることが伺える。
- ・2 番目に成長を実感している能力は「協働する能力」、3 番目は「思考する能力」であった。ただし、他の項目(能力)を見ても割合にさほど大きな違いが見られないものが多い。しかし、「多文化理解能力」と「外国語の能力」に関しては極めて低い。両方とも SDGs(持続可能な開発目標)に関係し、これからの時代を生きる人間に求められる可能性が非常に高い能力であるだけに、より学生が成長を実感できるような授業やカリキュラムのあり方を検討していく必要があると考えられる。
- ・4 の設問は、今年度より設置したものである。全体としては不満足群に比べ、満足群の割合が高い結果となったものの、多くの学生は「どちらともいえない」と感じている。本学修行動調査に伴う学生のフィードバックと教員によるアセスメントを丁寧に行うことが求められる。



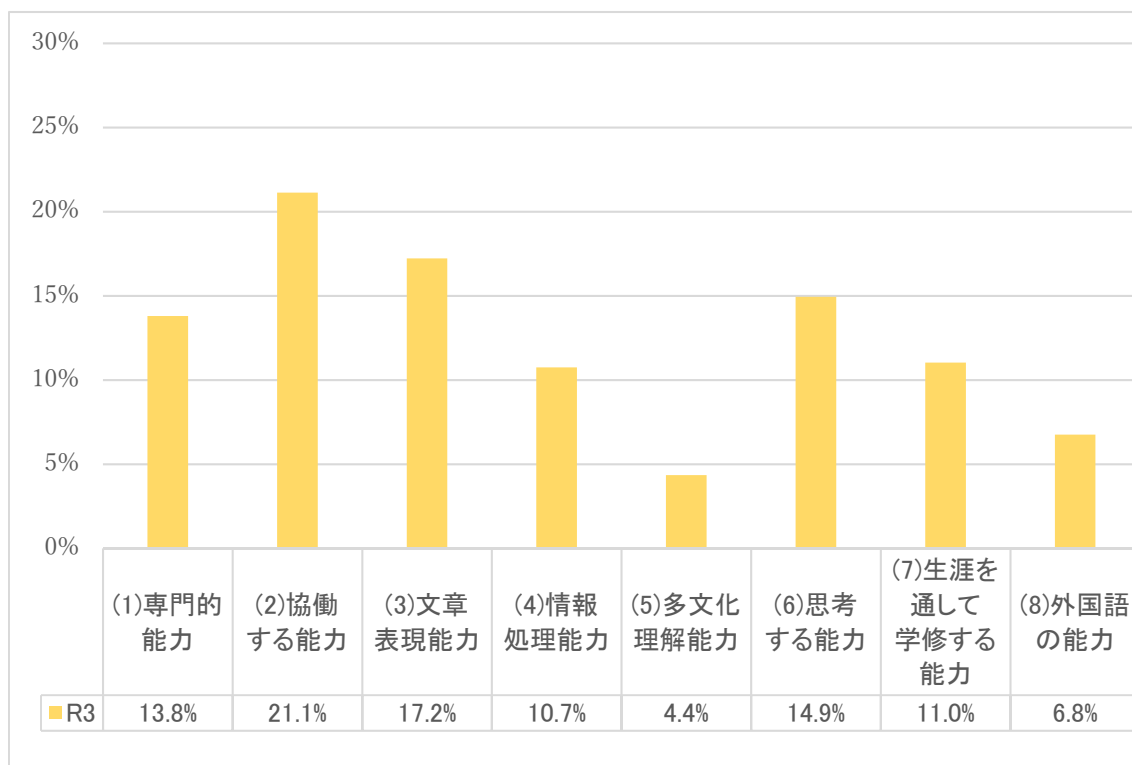
【Ⅳ：これから成長させたいと思っている能力(3項目)】

※各能力の概要・例はⅢで示したものと同一である。

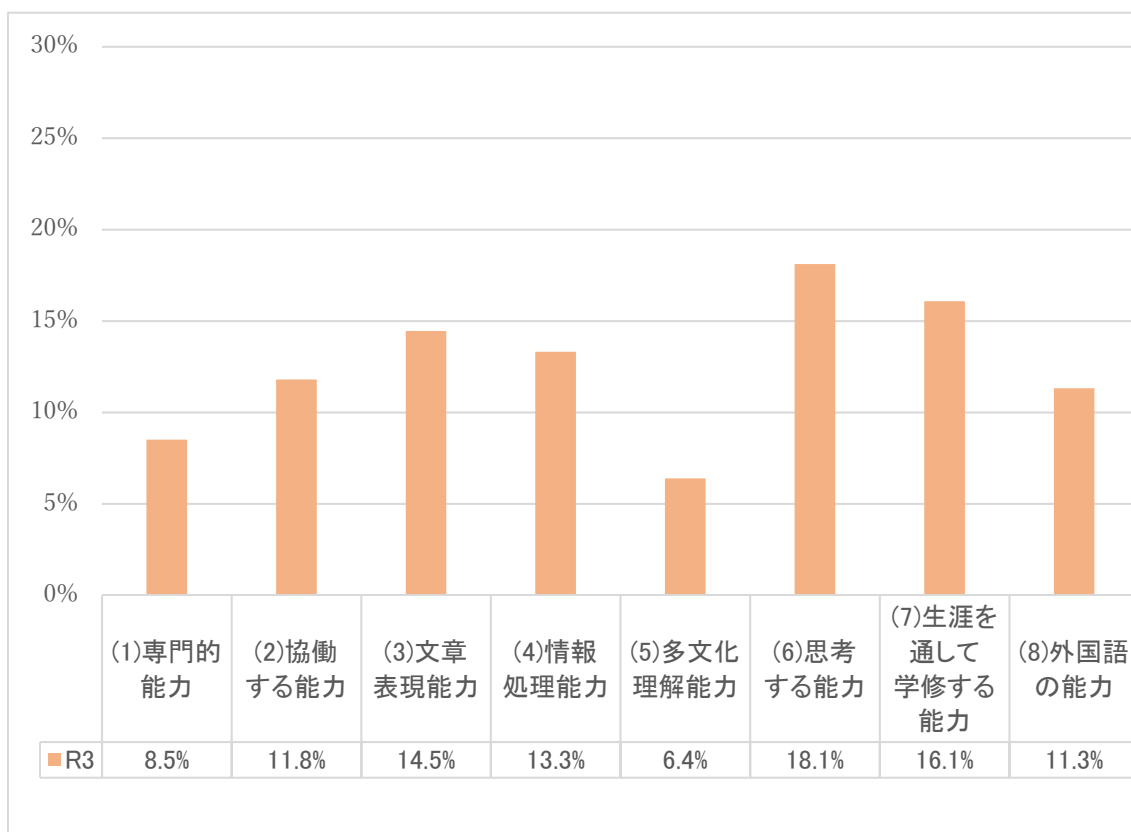
1. 最も成長させたいと思っている能力



2. 2番目に成長させたいと思っている能力



### 3. 3 番目に成長させたいと思っている能力

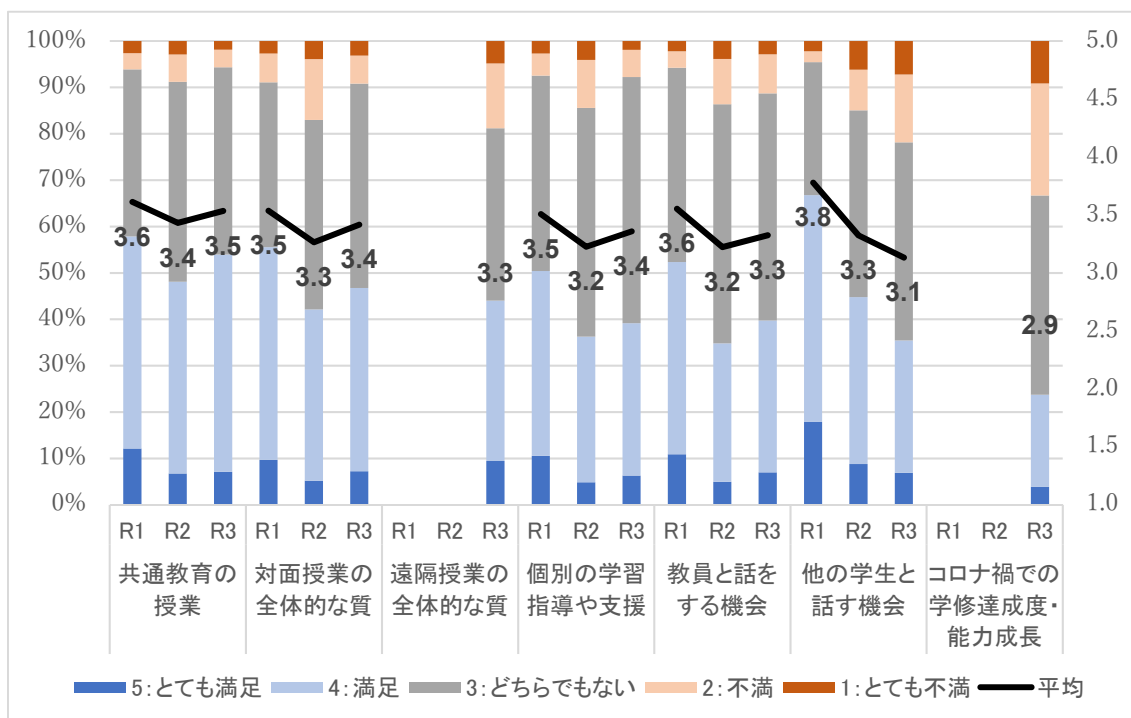


#### 【考察】

- ・本設問は今年度より設置した項目である。問い方についても自身が成長したと実感している能力の上位 3 項目を選択する方式に変更した。先に考察したⅢの設問では「これまでに成長を実感している能力」について問うたが、ここでは「これから成長させたい能力」を問うている。
- ・これから最も成長させたい能力は「専門的能力」、2 番目が「協働する能力」、3 番目が「思考する能力」とⅢの「これまでに成長を実感した能力」と変わらない結果となった。これは「成長を実感しているが、まだまだ成長させたい」という学生の向上心の表れであると思える。この結果自体は歓迎されるべきものと考えてよいだろう。
- ・一方で「多文化理解能力」については、Ⅲと同じく割合が非常に低くなった。Ⅲで指摘したことと同様ではあるが、学生にとって魅力的な授業やカリキュラムの構築を検討する必要があると考えられる。

【V:教育内容の満足度(7項目)】

(※「遠隔授業の全体的な質」、「コロナ禍での学修達成度・能力成長」については R3 年度より設置した項目である)



【考察】

- ・本設問については昨年度と比べて多くの項目で満足度が回復した。昨年度の満足度下落に関しては、報告書内において登学の制限や遠隔型授業の影響を指摘したが、今年度も状況的にはあまり変化がない。しかし、そんな中においても、満足度が一定数回復できたということは、授業や個別面談の際に、限られたリソースを最大限に活かしたことや、新たな ICT に関するスキルを身につける、または身につけるための支援を行う、といった個々の教員や大学組織の努力や創意工夫が実を結んだ結果であると考えられる。
- ・一方で「他の学生と話す機会」についての満足度は昨年度より下落した。2 回生以上の学生にとっては、登学の制限をはじめ、ソーシャル・ディスタンスの確保や黙食といった多くの有形無形の規制に不満だけでなく限界を感じていることの表れであるといえる。
- ・「遠隔授業の全体的な質」、「コロナ禍での学修達成度・能力成長」については今年度臨時で追加した項目であり、来年度も継続して設置するかは未定である。遠隔授業については満足群の割合が大きいものの、学修の達成度合いや能力成長では不満足群の割合の方が大きくなっている。この結果は対面授業の必要性和重要性を示しているものといえる。今後、若年層への新型コロナウイルスワクチンの接種が進み、来年度にはコロナ禍以前の大学生活が再開できることを期待したい。

以上